

新医療の創造で世界を牽引する

研究と臨床、地域と医療、いまとこれからをつなぎながら

研究成果をいち早く臨床へ 高度先進医療と地域医療の両立を目指す

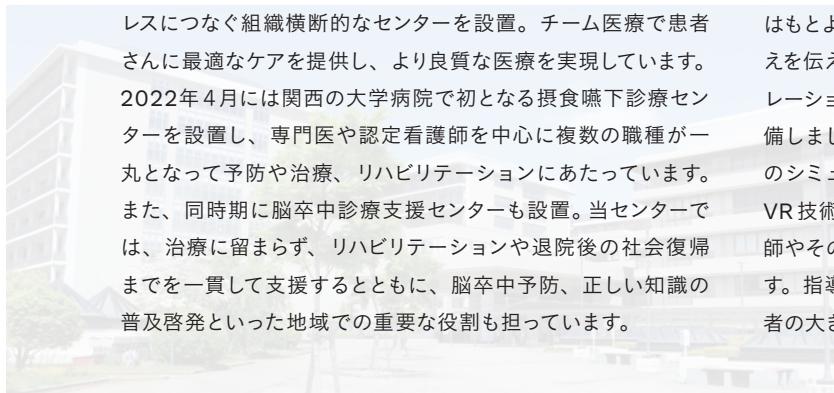
医学部附属病院の手術件数は年間1万件を超え、国立大学病院としてトップクラスを誇ります。高度な手術も多数行っており、中には2022年2月の血液型不適合条件下での生体肺移植のように当院が世界で初めて実施した手術もあります。また、未来的な医療を創造することも私たちの使命です。2020年に設立した先端医療研究開発機構では、早期臨床試験に特化した組織（Ki-CONNECT）を設置し、iPS細胞などを用いた新たな医薬品、治療方法を、1日でも早く患者さんに届けるために日々研究、開発に取り組んでいます。

一方で、地域における当院の役割も重要です。地域の機関と連携し、多様な疾患の受入れや救急医療にも注力しており、高い信頼のもと、開かれた病院を目指しています。



組織の枠を超えたチーム医療で最適なケアを実現

医学部附属病院では、「てんかん」「VHL病」「もやもや病」など、複数の診療科が関わる疾患の患者さんに向けて、医療をシームレスにつなぐ組織横断的なセンターを設置。チーム医療で患者さんに最適なケアを提供し、より良質な医療を実現しています。2022年4月には関西の大学病院で初となる摂食嚥下診療センターを設置し、専門医や認定看護師を中心に複数の職種が一丸となって予防や治療、リハビリテーションにあたっています。また、同時期に脳卒中診療支援センターも設置。当センターでは、治療に留まらず、リハビリテーションや退院後の社会復帰までを一貫して支援するとともに、脳卒中予防、正しい知識の普及啓発といった地域での重要な役割も担っています。



次世代医療人の育成と設備の拡充

次世代を担う医療人の育成も重要な使命のひとつです。医学部附属病院では基幹型臨床研修病院として毎年多くの前期研修医を受け入れ、医療技術の指導はもとより、これからの医療を担う人材に対して、医療者としてのあり方や心構えを伝え、育むことも大切にしています。さらに、2021年にはクリニカルシミュレーションセンター（CSC）を新たに整備しました。CSCでは100種類以上のシミュレータ機器のほか、最新のVR技術も導入し、医師を始め、看護師やその他職種にも広く開かれています。指導医が常駐していることも学習者の大きな支えとなっています。



Crowdfunding

[READYFOR キャンペーンページ](https://www.readyfor.jp/campaign/kyoto-university-hospital-project)

目標金額：1億円
達成率：100%
期間：2020年3月10日～2020年5月30日

高精度先端医療と感染症対策の両立てで、コロナ禍でも多くの命を守る
京都大学医学部附属病院（医療系・吉本家）

累計獲得額：66,759,000円
貢献者数：31,000人

実行者：京都大学医学部附属病院
実行者ID：1,508人
実行期間：2020年3月10日～2020年5月30日

プロジェクト概要：高精度先端医療と感染症対策の両立てで、コロナ禍でも多くの命を守る
京都大学医学部附属病院（医療系・吉本家）

プロジェクト概要：高精度先端医療と感染症対策の両立てで、コロナ禍でも多くの命を守る
京都大学医学部附属病院（医療系・吉本家）

プロジェクト概要：高精度先端医療と感染症対策の両立てで、コロナ禍でも多くの命を守る
京都大学医学部附属病院（医療系・吉本家）

新型コロナウイルスとの闘い

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、医学部附属病院ではいち早く感染症対策と高度医療提供の両立を目指し準備を始めました。救急外来や集中治療室などにおいてはクラウドファンディングを用いて陰圧化工事を実施し、多くの重症患者さんを受け入れました。また、各診療科の連携と努力により、がん治療や臓器移植など当院でしか治療できない診療も継続し、高度医療の提供との両立を果たすことができました。この間、患者さんやそのご家族をはじめ、日本全国の方々や本学関係者の皆様から多大な支援をいただきました。医療提供継続の大きな支えとなるだけでなく、温かいお気持ちに全職員が勇気を奮い立たすことができています。新型コロナウイルスとの闘いはまだ続きますが、今後も、当院でしかできない診療とコロナ患者さんの受入れを両立していきます。

安心して治療に専念できる療養環境の整備

がん治療に特化した病棟「積貞棟」の完成（2010年）を皮切りに、様々な施設整備を進めています。2020年に開設した「こども医療センター」では、先進的な医療設備や療養環境の改善はもとより、自習室や院内学級を整備し就学支援も行っています。また、病棟には京都芸術大学の学生により描かれたホスピタルアートをはじめとして、子どもたちが安心して過ごせるような工夫もしています。

